



珪藻土配合たたき風床仕上材

たたきくん 

施工要領書

平成 27 年 9 月 16 日



二瀬窯業株式会社

施工関連資材

●たたきくん（珪藻土配合たたき風床仕上材）



内 容 量	1 5 kg
仕上げ厚さ	8 mm
標準施工面積	約 1 m ² / 袋
標準加水量	水道水：約 1.5 L / 袋 (1.4 ~ 1.6 L の範囲で調整して下さい) たたきくん専用硬化液：0.2 kg

●たたきくん専用硬化液（専用硬化液）



内 容 量	0.2 kg
添 加 量	たたきくん 1 袋につき 0.2 kg 混入

●丸石パック（粒径 4 ~ 6 mm）



内 容 量	0.2 kg
散 布 量	たたきくん 1 袋につき 0.2 kg 散布

●たたきくん下塗材（専用下塗材）



内 容 量	2 5 kg
仕上げ厚さ	2 mm
標準施工面積	約 1 0 m ² / 袋
標準加水量	約 4.5 L / 袋

●ユニレックス 3（吸水調整材）



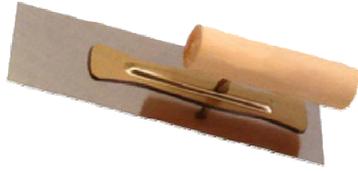
内 容 量	1 kg
標準施工面積	約 3 3 m ² / 本（5 倍希釈）

●P-VII（ピーセブン）（浸透性硬化材）



内 容 量	2 kg
標準施工面積	約 6 m ² / 本 (原液塗布、300 ~ 350 g / m ²)

施工に必要な道具



金ゴテ



木ゴテ



左官刷毛



スポンジ



スポンジ下駄

施工前の注意点

- ・ 車の乗り入れる場所は、割れ、削れの恐れがありますので、使用しないで下さい。
- ・ 駐輪場等自転車が乗り入れる場所において、自転車のスタンドが常時当たる部分は削れなどの恐れがあります。
- ・ 常時、水掛かりがある場所は、コケが生えてくる恐れがあります。
- ・ 階段など出隅部分は、角が欠ける恐れがあります。
- ・ 椅子等で同じ場所ばかり引きずると、削れる恐れがあります。
- ・ 油汚れ等の染み込む汚れは、除去しにくくなることがあります。
- ・ 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は、施工を行わないで下さい。
- ・ 下地を十分に乾燥させた後、施工を行って下さい。
- ・ コンクリート及びモルタル以外の下地の時には、施工を行わないで下さい。

たたきくん施工断面図

- ・ たたきくん下塗材（塗厚：2mm） + たたきくん（塗厚：8mm）、トータルで10mm厚の仕上がりとなります。

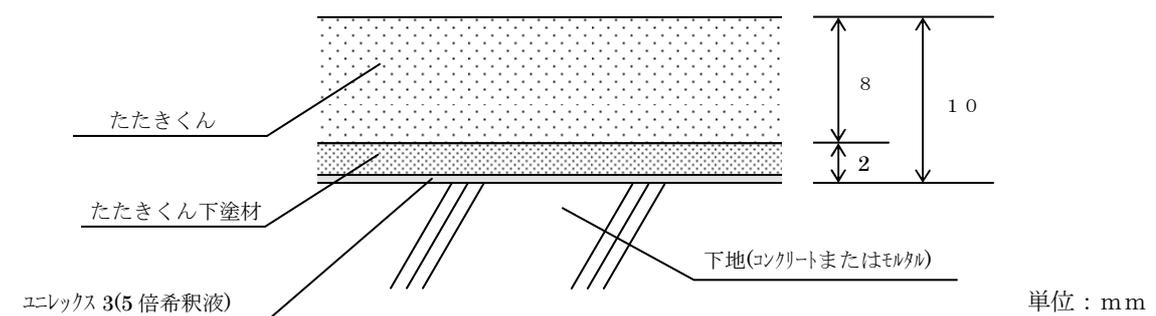


図1 たたきくん施工断面図

1. 下地処理

1-1 コンクリート下地への施工

- ・コンクリート打設後、1週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。
- ・施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行って下さい。
- ・レイトランスや油類等が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を行って下さい。
- ・コンクリートの極端な凸部や脆弱部分は、サンダー等で除去し、必要なら補強を施して下さい。
- ・極端な段違い部や凹部は、ポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。
- ・鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施して下さい。
- ・大きなクラックは、Vカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。

1-2 モルタル下地への施工

- ・たたきくん下塗材をよく密着させるため、下地のモルタルは木ゴテで表面を仕上げして下さい。
- ・モルタル塗り付け後、1週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。
- ・施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行って下さい。

[厳守事項]

コンクリート及びモルタル以外の下地のときには施工を行わない様にして下さい。

2. 伸縮目地の設置

2-1 伸縮目地の設置箇所

- ・伸縮目地の設置間隔は約3mおきに（目安としては、目地で囲まれた面積が約10㎡以内）、また、コンクリートのひび割れ誘発目地の位置に設けるようにして下さい。

2-1 伸縮目地の設置方法

I. 埋め込み目地（真鍮目地 等）を使用する場合



- ・真鍮目地棒をしっかりと固定して下さい。
真鍮目地棒は、幅5mm程度のものを使用をお勧めします。
- ・その後、たたきくんの施工を行って下さい。



II. 目地棒除去後、たたきくんで埋め戻す場合

① 目地棒の取り付け



- ・たたきくん下塗材などで、目地棒を取り付けて下さい。
- ・目地棒は、発泡目地棒を使用することをお勧めします。

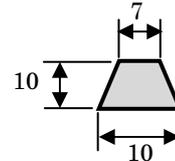


図2 発泡目地棒のサイズ (一例)

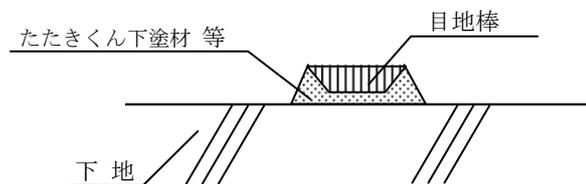


図3 目地棒の取り付け

②たたきくん施工



- ・目地棒を取り付けた翌日、たたきくんの施工を行って下さい。

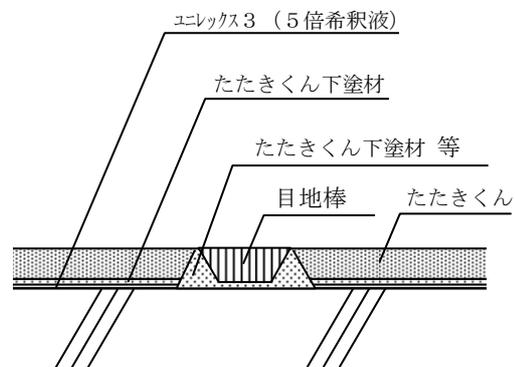


図4 たたきくんの施工状況

③たたきくん埋め戻し



- ・目地棒を取り除いた後、目地部分に篩って荒い骨材を取り除いたたたきくんで塗り付けて下さい。
- ※深目地にするか、面一にするかは、各現場でご判断下さい。

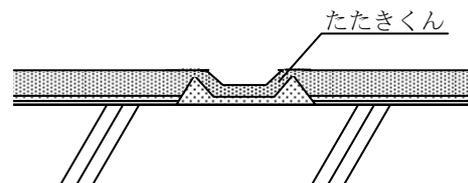


図5 仕上がり状況

3. 下地の清掃

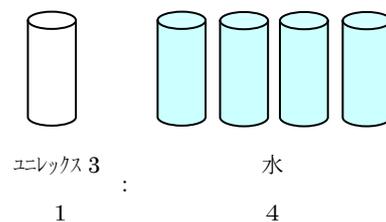


- ・塵や粉塵などは、掃除機やブロアー等で十分に除去して下さい。

4. 吸水調整



- ・左官刷毛等を使用し、施工面全面にユニレックス3の5倍希釈液にて、吸水調整を行なって下さい。



- ・吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから、次の工程に進んで下さい。目安としては、4時間以上です。(気象条件により異なります。)

5. たたきくん下塗材の塗付

5-1 たたきくん下塗材の混練

- ・たたきくん下塗材に規定量の水道水(4.5L/袋)を加え、ハンドミキサー等を使用し十分に混練して下さい。(標準施工面積:約10㎡)

5-2 たたきくん下塗材の塗付



- ・吸水調整の完了した下地に、たたきくん下塗材を十分にコテ圧をかけてしごき塗りを行い、追っかけてすぐに、2mm程度の厚みまで塗り付けて下さい。



- ・たたきくん下塗材を触って指に付く間に、たたきくんの塗付を行って下さい。目安としては、たたきくん下塗材施工後、30分以内です。(気象条件、下地の状況により異なります)

6. たたきくんの混練

- ・ たたきくんは、表1に示す配合にしたがって、袋単位（15 kg/袋）で計量し、混練するようにして下さい。
- ・ 練り混ぜ水は、きれいな水道水とし、台秤または計量カップを使用して計量して下さい。

表1 たたきくんの標準配合

たたきくん	練り混ぜ水（水道水）	たたきくん専用硬化液
		
1袋（15 kg）	1.5 L （1.4～1.6 Lの範囲で調整）	0.2 kg

- ・ たたきくんは、練り混ぜミキサーの違いにより、練り上がり性状が変わりますので、練り混ぜ水は1.4～1.6 Lの範囲で調整して下さい。施工軟度の目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。



- ・ 同一現場においての練り水は、はじめに決めた水量で継続して計量して下さい。施工の途中で練り水量が変わると、色ムラなどの原因となります。
- ・ 練り水量が多いと、耐摩耗性の低下やひび割れなどの原因となります。また、仕上がりまでの時間が長くなりますので、練り水量は厳守して下さい。

I. ハンドミキサーで混練する場合



- ・水道水（約1.4 L／袋）とたたきくん専用硬化液（0.2 kg／袋）を、予めハンドミキサー等で軽く混ぜ合わせておいて下さい。時間は、5～10秒程度です。



※ 硬化液は全て使い切るようにして下さい。



- ・硬化液を入れた練り水に、たたきくんを徐々に投入して、練りダマができないように約2分間混練して下さい。
- ・軟度調整が必要ならば、残りの練り水（0.1～0.2 L／袋）を徐々に加えて、適度な硬さに調整して下さい。目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。
- ・5分程度練り置き後、練り返して使用して下さい。
- ・練り置き時間は20分以内とし、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けて下さい。

- ・ハンドミキサーは、アルミ製のものは使用しないで下さい。
- ・練り上がったたたきくんは、直射日光を避け、シート等を掛け水分の蒸発を防いで下さい。

II. モルタルミキサー（タライ型）で混練する場合



- ・水道水（約1.4 L／袋）とたたきくん専用硬化液（0.2 kg／袋）を、予めバケツ等でレンガゴテやひしやく等で軽く混ぜ合わせておいて下さい。



※硬化液は全て使い切るようにして下さい。



- ・モルタルミキサーでたたきくンを攪拌しながら、硬化液を入れた練り水を徐々に投入して、練りダマができないように混練して下さい。
- ・モルタルミキサーの隅や攪拌羽根の周辺に混練不足のたたきくんが残っている場合があるため、一度ミキサーを止め、レンガゴテなどでかき落としを行い、再度混練して下さい。
- ・軟度調整が必要ならば、残りの練り水（0.1～0.2 L／袋）を徐々に加え、適度な硬さに調整して下さい。目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。
- ・5分程度練り置き後、練り返して使用して下さい。
- ・練り置き時間は20分以内とし、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けて下さい。

- ・混練時間が長くなると、たたきくんが必要以上に軟らかくなりますので、混練時間はトータルで2～3分程度として下さい。
- ・練り上がったたたきくんは、直射日光を避け、シート等を掛け水分の蒸発を防いで下さい。

7. たたきくんの塗付



- ・たたきくん下塗材を塗り付け後、たたきくん下塗材が乾ききらないうちに追っかけにて、たたきくんを所定の厚み（8mm程度）まで十分にコテ圧を掛けて金ゴテで平滑に塗り付けて下さい。

次工程以降は、直接仕上げ面には乗らず、スポンジ下駄を使用するか敷板等の上に乗って施工して下さい。水を使用するバケツについても敷板の上に載せ、仕上げ面に水がかからないように注意して下さい。

8. 定木ずり



- ・たたきくん塗り付け後、定木ずりを行い、平滑に整え、木ゴテでよくもみ込んで下さい。

9. 丸石の散布と埋め込み

9-1 丸石の散布



- ・たたきくに湿り気があるうちに、丸石パック(0.2kg)を散布して下さい。
 - ・丸石の散布量は、お好みにより調整して下さい。
- ※ たたきくんが乾燥すると、丸石が馴染み難いので注意して下さい。

9-2 丸石の埋め込み



- ・金ゴテを使用して丸石を埋め込み、軽く頭はりを行って下さい。
 - ・丸石がたたきくんで、少し被る程度まで埋め込んで下さい。
- 丸石が馴染みにくくなった場合
- ・水を含ませてかたく絞ったスポンジで、表面を軽くなでて、たたきくんと丸石を馴染ませて下さい。

10. スポンジ拭き取り 1回目



- ・たたくくんの表面の湿り気がなくなってきたら、水を含ませてかたく絞ったスポンジで円を描くようにして表面のノロ分を拭き取って下さい。
- ・拭き取り具合で表面の砂目の出し方を調整して下さい。

- ・スポンジ拭き取り時の水分が多いと、色ムラのおそれがありますのでご注意ください。
- ・使用するスポンジは、出来るだけ新しく凹凸が少なく平滑な物を使用して下さい。凹凸が大きく粗いスポンジを使用すると仕上がりが粗くなるおそれがあります。

11. 砂 掃 い



- ・最後に拭き上げた時点から10分程度経過後、表面に残った砂くずを乾いた左官刷毛やナイロン製で毛先にややこしのあるほうきで、軽く取り除いて下さい。

※ 強く掃くと表面が削れてしまいますので、注意して下さい。

12. スポンジ拭き取り 2回目(仕上げ拭き)



- ・たたくくんの表面の砂くずが乾燥してきたら(砂くずの色が白っぽくなってきます)、水を含ませてかたく絞ったスポンジで同一方向にきれいに拭き取り、砂目を出して仕上げして下さい。

※スポンジで同一方向に拭き取らないと、光の当たり具合によって見栄えが変わるおそれがあります。

- ・スポンジ拭き取り時の水分が多いと、色ムラのおそれがありますのでご注意ください。
- ・仕上げ拭きに使用するスポンジの水は、清水を使用して下さい。
- ・汚れた水を使用すると、色ムラの恐れがあります。
- ・拭き取りムラのないように十分に注意して下さい。

13. 砂 掃 い

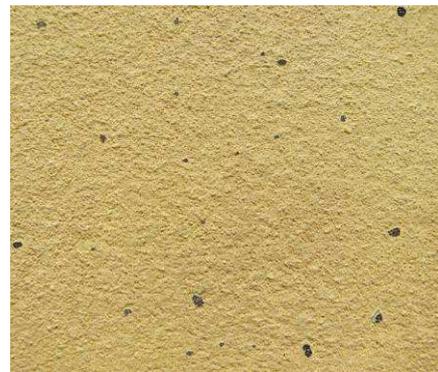


- ・表面の砂くずがある程度乾いたら、乾いた左官刷毛等を使用して表面の砂くずを掃いきれいにして下さい。さらに、翌日にも砂掃いを行って下さい。

巾木部分の清掃に、散り刷毛に水をつけて清掃しないで下さい。清掃に使った水が、たたきくんの際で白く変色する可能性がありますので、予め、養生しておいて下さい。



砂掃い前



砂掃い後

13. 養 生

- ・たたきくん施工後に降雨雪のおそれがある場合、または、通風・日照の激しいときはシート養生等の保護養生を行って下さい。
- ・シート等が直接たたきくに触れないように注意して下さい。
- ・たたきくん施工後、歩行や作業が行われる場合は、敷板等で養生し局部的に力が加わらないようにして下さい。歩行や作業終了後は、ただちに養生を取り除いて下さい。養生したままですと、色ムラのおそれになります。

14. 浸透性硬化材（P-VII）の塗布

14-1 事前確認

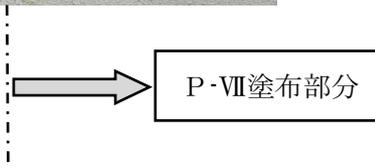
- ・ P-VII塗布前に、たたきくんが乾燥しているか確認して下さい。乾燥していない状態でP-VIIを塗布すると、変色や耐摩耗性が低下する可能性があります。目安としては、たたきくん施工3日以上経過後、P-VIIを塗布するようにして下さい。ただし、P-VII塗布までの時間は、気象条件などにより異なります。
- ・ 乾いた左官刷毛を使用して、たたきくん表面の砂くずを掃い、きれいにして下さい。

14-2 塗 布



- ・ P-VIIは希釈せず原液のまま使用して下さい。
- ・ P-VIIはムラなく左官刷毛等で、P-VIIが溜まるくらいまで、しっかりと塗布して下さい。（標準塗布量300g/m²）10分以内にP-VIIがまだ吸い込むような箇所があれば、再度塗布して下さい。
- ・ ローラー等で塗布すると、標準塗布量以下になるおそれがありますので、ご注意下さい。
- ・ P-VIIの塗布量が少ないと、色ムラになるおそれがありますので、ご注意下さい。
- ・ P-VIIを2回塗布しないで下さい。
- ・ P-VII塗布後、最低3日以上は降雨などの水掛かりに注意して養生して下さい。なお、たたきくに直接接触れないように養生して下さい。P-VIIが乾燥する前に水掛かりがあると変色する可能性があります。養生期間は、気象条件などにより異なります。

※P-VIIを塗布することで、多少塗れ色になります。



[P-VII塗布における注意点]



P-VII塗布から20分程度経過後、P-VIIが残ったままですと、変色する可能性があります。



乾いたスポンジ等を使用して、P-VIIを吸い取って下さい。



P-VII塗布直後



乾燥後

×悪い例



たたきくん施工翌日にP-VII塗布

たたきくんの施工後3日以内にP-VIIを塗布すると、降雨後、白く変色することがあります。したがって、必ずたたきくん施工3日以上経過後にP-VIIを塗布するようにして下さい。たたきくん表面が乾燥しているようにみえても、内部が乾燥していない場合がありますので、ご注意下さい。

15. 施 工 例

○出隅部分

出隅部分にたたきくんを塗り付けると、施工後、欠ける可能性がありますので、下記写真のように、コンクリート打設時に枠をつくるか、タイルもしくは石材を張ることをおすすめします。



○立ち上がり部分



○伸縮目地（真鍮目地）の設置例



注 意 事 項

- ・ 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は原則として施工を行わないで下さい。
- ・ 特に湿気の多い場所への施工は避けて下さい。
- ・ 車が乗り入れる場所への施工は避けて下さい。
- ・ 駐輪場等自転車が乗り入れる場所において、自転車のスタンドが常時当たる部分は削れなどの恐れがあります。
- ・ たたきくんには水や専用硬化液以外のものを混ぜないで下さい。
- ・ たたきくん下塗材には水以外のものを混ぜないで下さい。
- ・ たたきくん及びたたきくん下塗材はアルカリ性のためチリ廻りや幅木、サッシ等の養生は確実に行って下さい。(変色の恐れがあります。)
- ・ 色違いや段差ができないように、縁を切らずに連続して施工して下さい。
- ・ たたきくん及びたたきくん下塗材の保管は、直射日光、湿気を避け、パレット等で地面から離して保管して下さい。
- ・ たたきくんは天然素材を使用しているため施工時の季節や天候、製造ロット等の条件により色合いが多少異なる場合があります。
- ・ たたきくんの品質保持期限は、6カ月です。
- ・ たたきくん下塗材の品質保持期限は、3カ月です。



二瀬窯業株式会社

〒820-0044 福岡県飯塚市横田669

本社・工場 : 0948-22-0447 名古屋営業所 : 052-509-2485
関東工場 : 0438-30-7372 大阪営業所 : 06-6583-3310
東京営業所 : 03-3437-2324 福岡営業所 : 0948-22-0447